科目名称：	現代美術論（ビジネス実務学科）		
担当者名：	堀一浩		
区分	授業形態	単位数	
専門教育科目	講義	2	

授業の目的・テーマ

現代では単に視覚性や造形性、美的な感動だけでは美術を語ることは容易ではなく、作家・作品の背景となる政治・経済・科学など社会事象全般との関連を考えなければその本質は理解できなくなってしまった。そこで、伝統的な芸術概念のみを信じる多くの人々との間に深い溝を生じている。多様な２０世紀以降の美術の流れを紹介する。

授業の達成目標・到達目標

この授業では重要な美術運動や作家を分析しながらいくつかのキーワードを手がかりに解説し、単なる美術的な知識にとどまることなく、社会や生活などに多様な価値観を意識できるようにする。

基礎教育科目	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し他者との信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	様々な課題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	
DP(3)	専門的な知識や技能を修得し、それぞれの分野において、これらを柔軟に活用していくことができる。	○

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 （レポート含む）	その他	合計
全学DP(1)					0
全学DP(2)			0		0
全学DP(3)			80	20	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容１》	《経験年数１》
	《内容２》	《経験年数２》
	《内容３》	《経験年数３》
	《内容４》	《経験年数４》

備考

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
授業の理解	現代の社会と美術の状況を結びつけて理解し、独自の考えを持てる。	現代の社会と美術の状況を結びつけて理解し、独自の考えを持てる。	授業の内容を理解できている。	授業に集中せず、資料の内容を理解していない。
積極性	事前に入念にテーマについて学習し、質問を積極的にする。	事前に入念にテーマについて学習し、資料に要点や気づきの書きこみをする。	資料を確認しながら、要点の書き込みを行う。	授業に関心が薄く、集中していない。
考察	美術を取り巻く様々な問題を実社会や自身の生活とも関連づけて独自の意見をまとめられる。	テーマを明確にし、自己の視点で意見をまとめる。	テーマについて調べてまとめることが出来る。	既出の意見をまとめたものを単に写し、自己の視点がない。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間（分）
第１回　お金と美術	次回のテーマ（お金と美術）について下調べをしておく。	30分
第２回　マルセル・デュシャン	次回のテーマ（マルセル・デュシャン）について下調べをしておく。	30分
第３回　言葉と美術（コンセプチュアルアート）	次回のテーマ（言葉と美術）について下調べをしておく。	30分
第４回　自然・環境と美術（アースワーク）	次回のテーマ（自然・環境と美術）について下調べをしておく。	30分
第５回　コピーとオリジナルと美術	次回のテーマ（コピーとオリジナルと美術について下調べをしておく。	30分
第６回　ルールと美術	次回のテーマ（ルールと美術）について下調べをしておく。	30分
第７回　アウトサイダーアート	次回のテーマ（アウトサイダーアート）について下調べをしておく。	30分
第８回　性と死と美術	次回のテーマ（性と死と美術）について下調べをしておく。	30分
第９回　テクノロジーと美術	次回のテーマ（テクノロジーと美術）について下調べをしておく。	30分
第10回　戦争と美術	次回のテーマ（戦争と美術）について下調べをしておく。	30分
第11回　視覚・色彩と美術	次回のテーマ（視覚・色彩と美術）について下調べをしておく。	30分
第12回　マンガと美術	次回のテーマ（マンガと美術）について下調べをしておく。	30分
第13回　アーティストとして生きること	レポート作成のための作家について調べておく。	30分
第14回　現在の美術１	美術館を見学しておく。	100分
第15回　現在の美術2／授業内でディスカッションをする。	授業で興味を持ったジャンルについて調べておく。	30分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。

成績評価の方法・基準

定期試験は、 実施しない。　　その他の評価配分は、以下のとおりである。

レポートの提出を原則とし、レポートの評価８０％、授業への積極性２０％とする

課題に対してのフィードバック

定期試験は、希望者にはコメントをつけて返却する。

教科書・参考書

（カラー版）２０世紀の美術　末永照和監修　美術出版社
教科書の該当ページを開きながら解説を行う。